

明倫短期大学学会報告

言語治療に応用される歯科医療の紹介

伊東節子（教授，歯科衛生士学科）

言語治療における歯科医療の重要性について，その意義，種類，用い方の面から紹介した．鼻咽腔閉鎖機能の改善策にはスピーチエイド，軟口蓋挙上装置について，構音器官の形態面の改善策としてHotz床，オブチュレーター，顎義歯，舌接触床，人工舌床，エピテーゼについてそれぞれ供覧した．さらに口蓋裂治療では誕生後可及的早期から母親指導，言語管理が重要と考える著者の長年の主張から「口蓋裂言語治療システム」そしてこのシステムを支える方法の一つとして関連他科との協力体制の点から「口蓋裂診療班」の機能についても言及した．

第16回（通算第99回）：2005年7月28日（木）

歯科技工におけるエルゴノミクス

植木一範（講師，歯科技工士学科）

一般に歯科技工の作業環境は過酷な種々の条件下であり，技工士にとって作業品質の維持，作業効率の向上または疲労やリスクファクターの軽減，ヒューマンエラーの防止などを考慮して十分に環境対策に取り組む必要がある．エルゴノミクスは人の身体的・精神的機能や性質を研究し，それに適した道具や環境を設計し，開発する分野であり，歯科技工においても重要であると考えられる．今回は，歯科技工士学科1年生全員を対象に對して行ったKJ法および二次元展開法による実習環境の問題点を抽出し，その中でも特に椅子と作業姿勢についてエルゴノミクスの観点より調査したので紹介した．

教育効果の心理

—ティーチングとコーチングの違い—

山田隆文（教授，歯科衛生士学科）

歯科衛生士に患者さんとのコミュニケーションを行う上で，患者さんの感情への配慮を行うことは非常に重要な因子であるが，その前に，まず，自分自身のキャラクターを知る必要がある．その為に，交流分析（エゴグラム）および行動特性尺度について学生に自己分析を行わせ，教育に役立てている．分析結果を基に，歯科衛生士学科の学生の気質について考察を行ったので，報告した．

第17回（通算第100回）：2005年9月22日（木）

MIに基づいたコンポジットレジン修復

金子 潤（教授，歯科衛生士学科）

保存修復治療においてMIが可能になった背景には，Cariology（予防可能，進行停止，再石灰化）と接着歯学（象牙質面のシール，歯質保存）の進歩がある．再生不可能な硬組織を，齲蝕処置のために不必要に大きく削除しないで済むようになったことは，術者にとっても患者にとっても大変喜ばしいことである．今回はMIに基づいたⅡ級コンポジットレジン修復の術式を紹介し，従来のⅡ級インレー修復と比較した利点などについて説明を加えた．

新選択科目「国際歯科医療論」 （海外研修）の構想 ～ベトナムの場合～

福島祥紘（教授，歯科衛生士学科）

平成18年度から始まる3年制カリキュラムの中で，新しい選択科目として「国際歯科医療論」の設置が決まっている．これは，選択科目の〈海外研修〉として位置づけられている．しかし，実際に研修先については未だ決定していない．そこで，ベトナムでボランチア歯科医療を行っているJAVDO機構の派遣団に随行して，ベトナムの社会・歯科医療事情を探り，ホーチミン市の歯科大学との協調の可能性を検討した．3年制の3年に実施される予定の〈海外研修〉先として相応しいか否かを論じた．

第18回（通算第101回）：2005年10月27日（木）

歯科医院のイメージとコミュニケーション

吉澤 薫（歯科医師，附属歯科診療所）

小林 梢（歯科衛生士，附属歯科診療所）

メディアに掲載された歯科に関するアンケート調査から，歯科に対する一般認識を把握し，当診療所において医師，衛生士，技工士，それぞれの立場から患者サービスの向上を目指す．

歯科の恐怖等のイメージを緩和するのに十分な説明は重要であるが，患者，医師の間にコミュニケーションのギャップが存在する．ギャップを補うために医師はより十分な説明を心掛け，衛生士，技工士は患者に近い立場で情報提供をすることが重要である．